

1995年出土の木簡



(京都西南部)

京都・長岡京跡(2)

三条、門一力所、池状遺構一基、トイレ状遺構一基、町内溝二条、土坑一基他を検出した。池状遺構は素掘りで方形を呈し、水生植物の栽培池かと推測される。

- 1 所在地 京都府向日市上植野町五ノ坪
- 2 調査期間 長岡京左京第三五六次調査 一九九五年(平7) 一月～六月
- 3 発掘機関 財団向日市埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 國下多美樹
- 5 遺跡の種類 都城跡

- 6 遺跡の年代 長岡京期(七八四～七九四年)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は標高一三・五～一三・七mを測る旧小畠川の扇状地面に位置し、左京三条二坊六町と、三条条間南小路・東二坊坊間小路の交差点に相当する。

木簡は、完形の舟型木製品、土師器高杯と近接して出土した。六町は、北半の調査(左京第一～〇次)で官厨米や衛府関係の木簡、多数の墨書き土器(「主厨」「給服所」「中家」「井北」など)が出土しており、今回の成果を含めると宮外官衙町の一つであった可能性が高い。なお、廢都直後の延暦十四年(七九五)正月二十九日付太政官符(『類聚三代格』卷一五)に、「長岡左京三条二坊六町」ほか合計七町を勅旨所の藍圃に充てることがみえる。

8 木簡の釈文・内容

三条条間南小路北側溝SD三五六一五

(1) 奉度経等合四金剛般

□銭一百文

(157)×24×2 081

(61)×12×3 081

長岡京期の遺構として、
三条条間南小路北側溝、東
二坊坊間小路西側溝の二側
溝の他、六町内で掘立柱建
物一棟、目隠し塀四条、柵

・「備前□□」
・「□□〔水カ〕」

(3) (4)
『□□戸主阿波□』

(5) 「腸勝□」

(6) 「□□大□是□□」
「□□□□□□□□」
「□□□□□□□□」
「□□□□□□□□」

・「□□□□□□□□」

(116)×26×6 019

東一坊坊間小路西側溝SDII五六一一〇

(7) 「□□□□□□」

・「□□□□□□□□」
「□□□□□□□□」
「□□□□□□□□」
「□□□□□□□□」

(139)×(16)×4 019

(8) 「秦廣山」

・「□□□□□□」

(67)×(13)×2 019

(9) 「山厚カ」
「□□□□」

091

(1) は金剛般若経など合わせて四点の進上に關する文書簡か。
(5) (6) は習書。
(5) の三文字目は「月」(にづき)の付く字である。
(7) は文書断簡。(8) は上部を焼損する。「秦廣山」の名前は、天平

勝宝七歳（七五五）九月班田司歴名に山代国算師としてみえる（『大日本古文書（編年文書』四一八一）。東一坊坊間小路西側溝出土木簡は(7)～(9)の他に、断簡五点、削屑二点があるが、いずれも判読できていない。題籤軸部が伴出する。

池状遺構出土の断簡一点も遺存状態が悪く、判読できていない。
内一点は上部に符籤と思われる墨線が引かれている。
(國下多美樹・清水みさ)